

何をどのくらい保管するの？

防災備蓄庫には災害時に備え、さまざまな物資を保管する予定です。まずは、避難時に欠かすことができない調理不要で長期保存が可能な食料と飲料水。また、ラジオやランタン、簡易トイレなどの防災便利アイテム。そして、避難場所の施設状況によって、防寒対策用品や寝袋・テント、衛生用品などを保管します。

防災備蓄庫に保管する備蓄品の数量は、各避難場所の周辺人口などから算出した想定避難者数をもとに決めていて、想定避難者数が必要とする物資量のおおむね50%を備えることとしています。

行政による備蓄には限界があります。全てのかたが十分に満足できるだけの量を備蓄することは難しいので、各家庭でも災害時に備えて次ページを参考に備蓄品を用意するようお願いいたします。

地域の防災力を高めていくために、行政と家庭が連携し、備蓄意識を高めていくことが重要です。



全ての備蓄庫で保管するもの

- 調理不要の非常食や飲料水
- ラジオ・ランタン・電池
- 簡易トイレ
- 軍手 など

近くに生活館や寺社などの施設がある備蓄庫

- 発電機・ストーブ・備蓄用燃料
- 防寒用毛布・寝袋
- 衛生用品(歯みがきシート、ボディタオル)など

近くに避難施設がない備蓄庫

- アルミ保温シート・薪・着火用品・やかん
- ワンタッチ式テント・折り畳みベンチ
- 簡易便座 など



旧助役公邸跡地(潮見台)の防災備蓄庫

もしもの時はどうやって使えばいいの？

防災備蓄庫は平時は防犯のために施錠していますが、地震の揺れを感知して自動的に開放されるキーボックスをドアの横に設置します。地震発生時にはこのボックスから取り出したカギでドアを開け、倉庫内の備蓄品を使用することができます。さらに、夜間に災害が発生した場合でも対応できるように、ソーラー充電式の照明を設置します。

備蓄品には限りがありますので、避難してきたかた同士で協力しあい、平等に物資を使うようにしましょう。

防災備蓄庫 建設候補地

- ・ 葬斎場付近
- ・ 新日本電工裏山
- ・ ソビラ荘裏山
- ・ 岡田生活館付近
- ・ 東平宇高台 など

※他に、鶉苫・西町・栄町・朝日丘・平宇にも整備候補地がありますが、民有地のため今後土地所有者のかたと協議を行います。

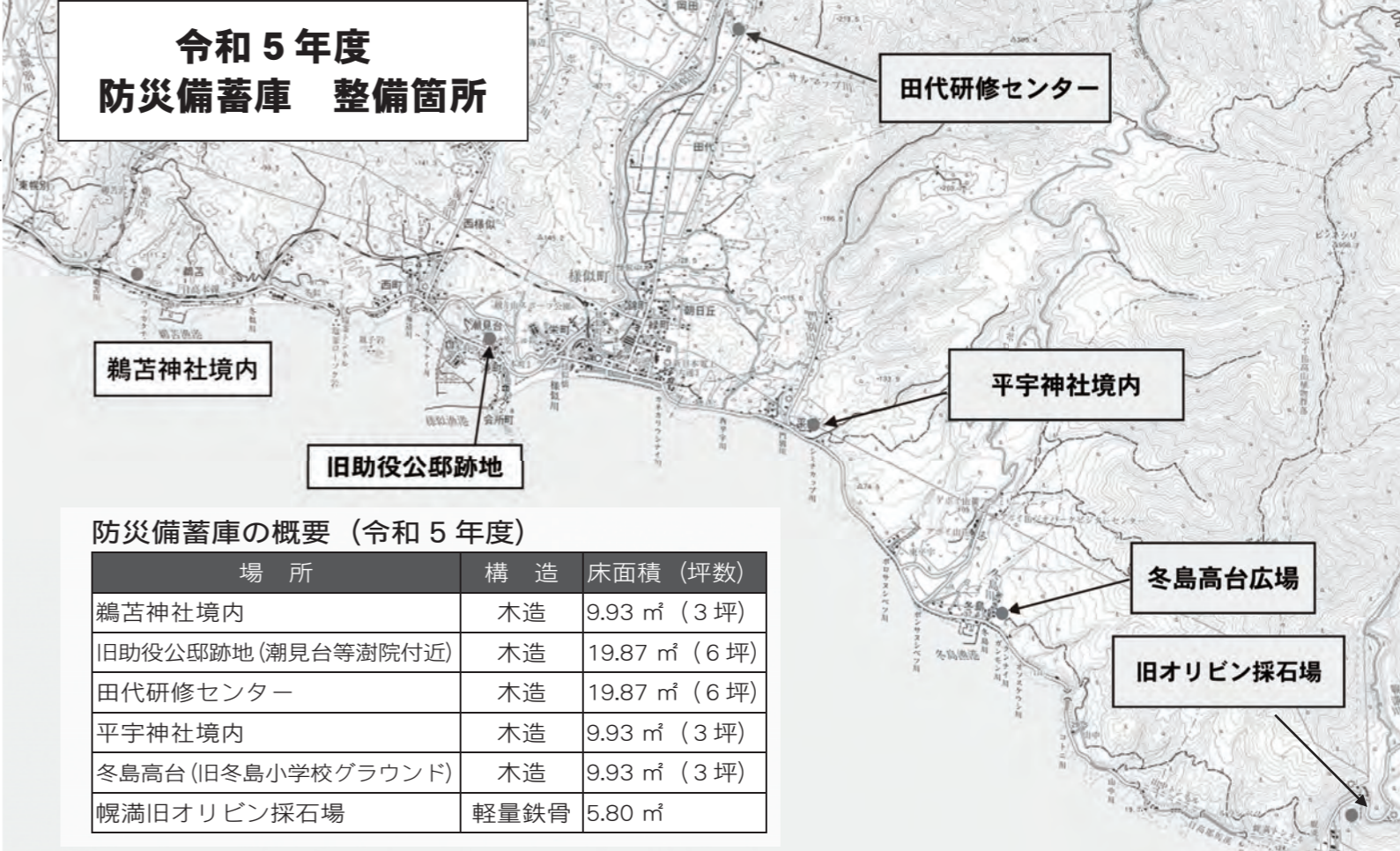


今後の見通しは？

令和6～7年度にかけてさらに10か所程度に防災備蓄庫を整備する予定です。候補地については右のとおりです。なお、西町の法耀寺については備蓄庫の建設は行いませんが、寺院内に備蓄品を保管させていただくことで対応する予定です。また、アポイ山荘、旭生活館については同様に備蓄庫の建設は行いませんが、すでに施設内に備蓄を行っておりますので、さらなる拡充を図ります。

今後も、防災備蓄庫の整備や防災訓練などを通じて、地域の防災力を一層高めていきたいと考えています。

令和5年度 防災備蓄庫 整備箇所



防災備蓄庫の概要 (令和5年度)

場所	構造	床面積 (坪数)
鶉苫神社境内	木造	9.93 m ² (3坪)
旧助役公邸跡地(潮見台等澗院付近)	木造	19.87 m ² (6坪)
田代研修センター	木造	19.87 m ² (6坪)
平宇神社境内	木造	9.93 m ² (3坪)
冬島高台(旧冬島小学校グラウンド)	木造	9.93 m ² (3坪)
幌満旧オリビン採石場	軽量鉄骨	5.80 m ²

備えあれば憂いなし 行政と家庭の防災備蓄

大きな地震や津波などの自然災害に直面したとき、最も大切なことは早急な安全と物資の確保です。様似町は、浦河沖地震や十勝沖地震をはじめとする大地震に繰り返しおそわれてきた地域です。国は千島海溝(十勝沖～根室沖～択捉島沖)周辺で今後30年以内に東日本大震災と同規模かそれ以上の大地震が発生する確率を7～40%と評価しており、このような大地震が発生した場合、最大18.5mの津波が様似町をおそうと想定しています。

こうした災害から命を守るためには、日頃の備えを積み重ねていくことしか方法はありません。その取組みの一つとして、町では今年度から3か年で各地域の津波避難場所に「防災備蓄庫」を建設しています。ここでは、防災備蓄庫にはどのような役割があり、何が保管されているのかについてご紹介します。

「防災備蓄庫」の役割と意義って？

津波災害の発生時には公共施設のほとんどが被災し、ライフラインや道路網が寸断されてしまうことが予想され、各地域が孤立し物資の調達や供給を迅速に行うことができなくなることが想定されます。

このため、津波避難場所に避難した住民が、津波の脅威が去るまでの間、命をつなぐことができるよう必要な物資を保管する防災備蓄庫を各地域に整備することとしました。



平宇神社境内に建設中の防災備蓄庫

非常持出袋のご準備を！

町では、前ページでご紹介したように、津波に備えて防災備蓄庫を整備し、非常食や水、防寒用品などの備蓄を行っています。町民のみなさん全員が満足できるだけの量を備蓄することはできません。

津波浸水想定区域内にお住まいのかたは、迅速に避難できるように玄関など避難時に必ず通る場所に非常持出袋を備えておくようにしましょう。最初から全てのものをそろえる必要はありません。できる範囲から、徐々に取り組みを始めていきましょう。



足腰が不自由な人もあきらめずに！

「津波てんでんこ」（まずはてんでばらばらに逃げる）ということわざのとおり、津波から身を守るには、一人ひとりができる範囲の行動をしっかりとることが不可欠です。

足腰が不自由なお年寄りのかたなども「どうせ逃げられないから…」とあきらめたりせず、家の中から玄関まで出てくるだけで、他の人に手助けしてもらえらる可能性も広がります。



非常持出袋に入れておくものの例

※重さの目安
男性 15kg 女性 10kg

非常食・飲料水

- 非常食（軽量、調理や水が不要なもの）
→ カロリーメイトなどの栄養補助食品、
飴やチョコレート、ゼリー飲料など
- 飲料水
→ 500ml ペットを2～3本ほど

情報収集用品

- 携帯ラジオ
- スマホ用のモバイルバッテリー
（電池式でもOK）

救急・衛生用品

- 絆創膏・包帯・消毒液
- 水に流せるティッシュ
→ トイレトペーパーの代わりに
- ウェットティッシュ
- マスク
- 持病の薬
- 携帯トイレ
- 歯みがきシートや歯間ブラシ

衣料品

- 雨合羽
→ 傘よりも両手の空く雨合羽を準備しましょう
- 替えの下着
→ 雨や津波で濡れてしまった場合の体温維持のため

便利用品

- ヘッドライト
→ 懐中電灯より両手の空くヘッドライトがおすすめです
- 乾電池
→ 単3か単4に統一しましょう
- ビニール袋
- 作業用手袋（軍手でも可）
- マッチやライター

貴重品

- 現金
- 身分証明書（コピーでも可）
- 家族の連絡先メモ

暑さ・寒さ対策用品

- アルミ保温シート
- 使い捨てカイロ
- 扇子やうちわ

ご家庭によって必要になるもの

- 赤ちゃん用ミルクや離乳食
- 使い捨て哺乳瓶
- おむつ
- おしりふき
- 予備のメガネ
- 生理用品
- ペット用品



町防災担当者の非常持出袋の中身

※非常持出袋は両手が空くように、背負うタイプのものにしましょう。

9月1日は「防災の日」 普段から、いざという時の備えを

毎年9月1日は、1923（大正12）年に関東大震災が起きたことなどにちなみ、「防災の日」と定められています。

地震や津波などの自然災害はいつ起こるのかわからないものです。事前に、家庭で避難用の備蓄品を備えたり、避難ルートを確認しておくことで、被害を最小限に抑えることができます。例えば、食料や水、必要な薬、乳幼児や妊婦さんの特別なケア用品などを用意しておけば、避難場所においても安心して過ごすことができます。

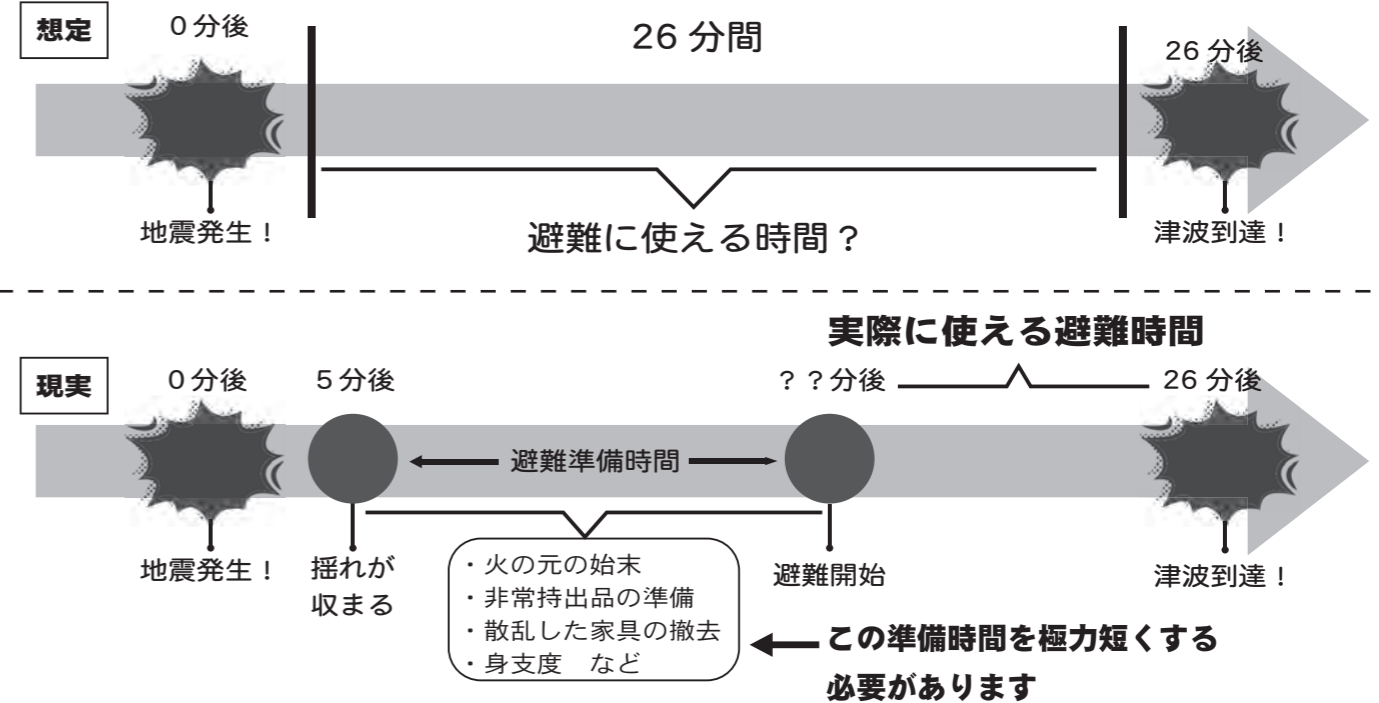
町民のみなさんも、今一度災害への備えについて考えてみましょう。

津波からの避難は時間との勝負です！

様似町には地震発生から26～28分で津波の第一波が到達すると予想されていますが、海岸沿いや川の河口付近ではさらに早く浸水が始まることもあります。

また、東日本大震災では地震発生から5分以上も揺れが継続しており、地震発生直後に避難を開始することができない可能性もあります。

津波から迅速に避難するためには、日頃からの備えを行い、避難準備にかかる時間をできるだけ短縮することが必要です。



ハザードマップも確認ください



想定される大地震が発生した場合、様似町では震度6強の揺れが起こるとされています。地震により家具などが転倒し玄関までのルートがふさがれてしまうと、迅速な避難ができなくなってしまいます。また、寝室に大きな家具を置いている場合、その下敷きとなって逃げ遅れてしまうおそれがあります。大きな家具は必ず固定し、なるべく寝室や避難経路上には置かないようにしましょう。

家庭内の避難経路は確保できていますか？